

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	アナライズ3	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	Protools 101				
担当教員情報					
担当教員	柴	実務経験の有無・職種	有・作編曲エンジニアリング		
学習目的					
<p>楽曲制作にはメロディやコードや理論の他にも、いかにその曲を魅力的に聴かせるか、という、エンジニアリングの部分も不可欠となる。特に作編曲を自分でこなしていくサウンドクリエイターコースの学生は、自分の曲にギターやボーカルといったプレイヤーの演奏を録音する必要があり、最終的に曲を発表するところまで自分でコントロールしていく技術が必要である。また外部のエンジニアやプレイヤーにデータを渡す際のデータの取りまとめなども重要になってくる。この授業では、AVID社のProToolsというDAWソフトの操作を覚えることを基本として、今後音楽活動で必要になってくるレコーディング・ミックス・マスタリング・他プレイヤーとの連携のためのノウハウなどを理解し実際に操作できるようになることを目的とする。</p>					
到達目標					
<p>作編曲で仕事をしていくためには、自分の曲にギターやボーカルといったプレイヤーの演奏を録音し、自身の楽曲を市販されている既存楽曲に近いレベルにまでクオリティを上げるため、プラグインエフェクトを理解し、ミキシングで、より楽曲の魅力を高め、イメージした音を作り出せる。最終的に曲を発表するところまで自分でコントロールする技術とノウハウを身につける。また動画に対する音の処理を学習し、音楽だけではなく動画に対してもクオリティの高い音づけができる。</p>					
教育方法等					
授業概要	アナライズ1・2で学習した内容と、ProTools101の資格取得を通じて学習した内容を前提として、さらに実際の音楽制作に直結した内容を扱う。レコーディングではマイクのセッティングや機材の取り扱い方、プレイヤーに気持ちよく演奏してもらうためのディレクションのノウハウなどを学習していく。効果音作成やフォーリー収録、MA作業などの、動画に対する音づけ、という部分も多く取り扱う。				
注意点	授業で使う教材を配布した後、講師の説明と実演を見てから、各自が自分のMacで作業をする。講師の説明をよく聞いてノートをとること。基本の操作は一年を通して何回も行うので、そのときに自身のノートを参照できるようにわかりやすくまとめること。またそれぞれの作業終了後に理解度をチェックするため成果物を提出する。この提出物が評価をする際の対象となるので提出日に欠席しないこと。またヘッドホンや変換端子などは各自用意すること。この授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験を評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	サンプラーの活用(1)	ソフトウェア音源のルーツであるサンプラーの仕組みとPCMについて理解を深める。			
2回	サンプラーの活用(2)	スマホなどを利用して外録ができる。目的の音をイメージどおりに収録できる。			
3回	サンプラーの活用(3)	自分で収録した音素材をトリムし、音圧音質調整をしてサンプラーに取り込むことができる。			
4回	サンプラーの活用(4)	オリジナル音源だけを利用して8小節の楽曲を制作できる。			
5回	楽譜の作成(1)	スコアエディタでMIDIデータを表示し、楽譜表示に最適な状態にカスタマイズができる。			
6回	楽譜の作成(2)	繰り返し記号やコードネーム、歌詞などを入力できる。			
7回	楽譜の作成(3)	ボーカル用・バンドメンバー用・サウンドトラック用に最適な楽譜を複数作成できる。			
8回	レコーディング実習(1)	レコーディング用のドラムを打ち込める。その他のパートのラフな打ち込みができる。			
9回	レコーディング実習(2)	メロ譜・コード譜を作成し、レコーディング用のステムミックスを作成できる。			
10回	レコーディング実習(3)	プレイリスト・ループレコーディング・コンピングを理解し、録音や編集ができる。			
11回	レコーディング実習(4)	マイクとインターフェイスをセッティングしてベースをレコーディングできる。			
12回	レコーディング実習(5)	マイクとインターフェイスをセッティングしてギターをレコーディングできる。			
13回	レコーディング実習(6)	マルチトラックデータを整理し、OKテイクを作成することができる。			
14回	レコーディング実習(7)	プラグインやオートメーション使用し、イメージした音を作り出すことができる。			
15回	レコーディング実習(8)	指定されたサンプリングレート・ビットデプスなどの規格通りにファイルを出力できる。			